広げよう 国際交流の輪

市長を囲む新春座談会

この座談会は、1月2日新春市政特別番組として、NSTで放映したものです。写真は右から小池泰子さん、長谷川二朗さん、若杉市長、司会者の皆さんです。(新潟国際友好会館にて)

出演者

長谷川二朗さん（新島町通1、51歳）

日本ホテル協会新潟市支部会会長。公私にわたる外国人との豊かな交流から、国際交流に深い理解を寄せている。

小池　泰子さん（関屋下川原町1、36歳）

ＡＦＳ日本協会新潟支部長として、留学生の世話をはじめ多忙な毎日を送っている。留学生にとっては優しいお姉さんと慕われている。

若杉　元喜（新潟市長、66歳）

今年も、豆剣士たちの寒げいこでの元気なかけ声で、1年の幕明けを迎えた。「人と人とのふれ合い」を大切にする「活力ある」街づくりを目指す。

司会　**樋口　幸子**さん（NSTアナウンサー）

文化や市民生活にプラス　市長
みんなで交流の努力を　長谷川さん

ハバロフスク市から芸能使節団も来港(音楽文化会館で)

司会　あけましておめでとうございます。

新潟市は、空港や港があることから、日本海側最大の都市として、早くから国際交流に取り組んできました。

そこで今日は、「広げよう国際交流の輪」というテーマで、いろいろと話し合っていただきたいと思います。

若杉市長、今日の座談会の会場である国際友好会館ですが、どのように利用されているんですか。

市長　ここは、五十六年七月にオープンしました。新潟におられる外国の人、新潟に来られる外国の船員など、多くの皆様の憩いの場として設けました。

新潟市にはアメリカのガルベストン市、ソビエトのハバロフスク市、中国のハルピン市の三つの姉妹・友好都市がありますが、これらの都市の紹介をする展示コーナーとふれあいの場となるスペースもあります。

また、姉妹・友好都市から多くの方が来られますと、市民委員会の方々と、ここで一緒にふれあう場ができるといった、そういった所なんです。

司会　多くの方々に利用して頂きたいですね。

市長　昨年は六千人の方に利用して頂きましたが、もっともっと、利用者が多くなってほしいと願っております。

司会　若杉市長、昨年は随分と姉妹・友好都市との交流が活発だったようですね。

市長　毎年、これらの都市との間には友好親善をはかるために、様々な行事が行われていましたが、とりわけ、昨年は、ガルベストン市、ハバロフスク市との姉妹都市締結満二十年、そして、ハルピン市との友好都市関係を結んで満六年ということで、数多くの団体が交流を行いました。

ガルベストン市からは市民委員会の会長さんが来たり、ハバロフスク市とは、芸能やスポーツの使節団の交換をしました。さらに日ソ沿岸市長会議を新潟市で開催しました。

このほか市美術館のオープンの際には「オランダ絵画の百年展」を記念してオランダ大使もおいでになりました。

また、ハルピン市からは宮本言市長がおいでになり、友好協力関係をより一層発展させるための「覚書」の調印を行いました。

司会　各方面で盛んに交流が行われたわけですね。長谷川さんは、お仕事がら、そういった交流の機会が多いんでしょうね。

長谷川　ええ、お手伝いを申し上げるということは、よくございます。新潟市は他の都市に比べて早くから外国の自治体と交友関係を結び、友好のご努力をされていますが、今度はもっともっと、市民一人ひとりが交流をするように努力をされてはと思っています。

市長　そうですね。今、長谷川さんがおっしゃったように、新潟市は国際交流の歴史があるところです。外国の方々が来られるということは、文化や経済さらには新潟市民の生活にもいろいろ良い影響を及ぼすことになります。そういった良い影響を外国の方とのふれあいの中で受け止め、生活の向上、文化の向上、経済の向上などに結びつけていくことが大切じゃないでしょうか。

ハルピン市で昨年7月に開催された新潟友好展覧会

市民交流が発展へのカギ　市長
ホームステイの体験は素晴しい　小池さん

司会　若杉市長、新潟市には、市民の皆さんが、姉妹・友好都市の委員会を作って、積極的に交流をされているそうですね。

市長　新潟・ガルベストン委員会、新潟・ハバロフスク友好市民委員会、新潟・ハルビン友好市民の会――の三つの市民委員会が四年前に発足しており、市民どなたでも自由に参加できます。

市民委員会では、「市民友好の翼」で相手側へ行ったり、また向うから来た人たちと交流したりしてお互いに理解を深めよう、そんなことをやっているんです。ですから、新潟の市民委員会は活発ですよ。もっともっと、市民が大勢参加し、留学生にもとけこんでもらいたいですね。

市民同士の交流がないと、友好関係は発展しませんからね。

司会　昨年の夏、「市民友好の翼」でガルベストン市を訪問した人たちはホームステイを通して友好を深められたそうですが、長谷川さんと小池さんはホームステイをした経験はありますか。

長谷川　私は商売柄ホテルを使うということが多いんですが、個人のお宅へ伺うということは何回かありますし、お招きいただいたことも何回かございます。その度ごとに、大変あたたかく迎えていただいています。自分の子供もお客様のお子達も、分け隔てなくホームステイとして受け入れているところを、よく拝見いたします。お客様であるとか、何かと仰々しい分け隔てをしないのは、日本とは、ちょっと違うような気がいたしますね。

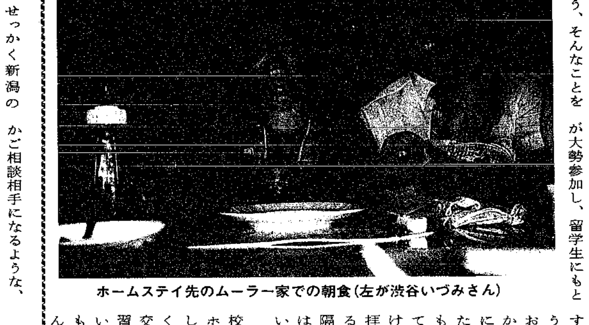
小池　そうですね、私は高校時代に一年間アメリカでホームステイを経験いたしました。それからもう二十年近くも経っていますが、今でも交流は続いています。言葉や習慣が違って戸惑うことはいっぱいあったんですけれども、やっぱり人間同士同じなんだ、理解し合えるんだ、愛し合えるんだということが、実感としてわかりました。

一年間私を受け入れてくれた家族と、周りの人達の親切に何とか恩返しをしたいという気持ちで、今こういう留学生を受け入れるというボランティア活動をしているわけなんです。また、新潟に来ていた留学生達が帰国してから、向こうで受け入れた留学生達のお世話をしてくれているという事実もあります。

ホームステイを通じて築かれる人間関係というのは、本当に素晴らしいものがあると思いますし、現実的に国際理解を深める、そういう原動力になっているんじゃないかと思います。

市長　一昨年、私がガルベストン市へ行った時、言葉の面が気がかりで、もう少し日ごろから勉強しておけばと思ったものですから、「市民の皆さんが友好の翼でガルベストンへ行ってホームステイをする」と聞いた時、言葉の方は大丈夫かな、と少し心配しました。

司会　友好の翼でガルベストンへ行った渋谷いづみさんに会って話を聞いてきたのですが、大変感銘を受けられて、機会があれば、またぜひ行きたいとおっしゃっていました。



ホームステイ先のムーラー家での朝食(左が渋谷いづみさん)

ガルベストン市での ホームステイ体験
渋谷いづみさんの話
(白山浦1、25歳)

海に面しているまちで、すごく海岸線が長くて奇麗で、何か新潟と似ているような感じがしました。

向こうではホームステイで、二日だけだったんですけれども、ムーラーさんという方のお宅に泊めていただきました。

食事の時の話題は主に身の周りの事ですね。仕事のこととか、趣味のこととか、身近な話題が多かったです。

「友好の翼」に参加したことによって、今まで全く知らないまちだったガルベストン市が、本当に身近で興味のあるまちに変わりました。

ガルベストン市からもどって来てからも、クリスマスですとか、季節の便りは続いています。

滞在期間は短かったんですけれども、また手紙によって、お互いの生活のこととか、いろんなことが話せるので、これからも文通を通して交流を続けていきたいと思います。

気楽な気持ちでお付き合いを　小池さん
今日来た手紙は今日中に　長谷川さん

司会　ところで、外国の方との交流は、言葉の問題や生活習慣の違いなどがあって、簡単にできにくいことも沢山あると思います。私たちはどういうことを心がけていけば良いでしょうか。

長谷川　日本のご家庭では、親切心の表し方がちょっとよそよそしいところがあったり、恥ずかしがったり、少し引っ込み思案だったりすることがありますね。もう一つは、お手紙をいただいたら、すぐご返事を出すということです。早い返事、クィック・リスポンスですね、これはビジネス社会では鉄則ですけれども、今日来た手紙を今日中に書くということが、いろんな良い関係を継続していく原則だろうと思うんです。小池さんが長いこと良い交流をお持ちだというのは、かなり頻繁に、手紙とは限らないでしょうけれども、様々な方法で交流がおありだったんだろうと思います。

小池　そうですね。交流を続けるには、必ず通じ合うんだという信念というんですか、気持ちが必要ですね。

必ずお互い人間同士通じ合うんだという気持ちが根底にあれば、たとえ間違った文章を書いてもかまわないと思うんですね。英語が下手でもかまわないと思うんです。しゃべれなければ、絵を書いてもいいですし、同じ好きな音楽を一緒に聞いてもいいですしね、何も英語だけでなくて、コミュニケーションの手段というのは、探せばいくらでもあると思うんです。ですから、もっと、気軽に、付き合っていただきたいと思うんですね。

国際交流と言いましても、そんなにおおげさなことではないと思うんですね。いわば個人個人のお付き合いで、それがたまたま外国人だということなんですから……。

アメリカの青年たちとの交流(友好会館で)

もっと新潟市に留学生を　小池さん

司会　小池さんが活動されているAFSという団体は、どういう団体なんですか。

小池　AFSというのはアメリカン・フィールド・サービスの略称で、アメリカ野戦奉仕団というんです。この団体が、かつては戦場で傷ついた人々を助けるという、奉仕活動をしていたことから、この名前がつきました。

第二次世界大戦後、こういう悲惨な戦争を二度と繰り返さないためには、国と国との間の相互理解が必要だということで、人的交流機関として発足し今日まで続いています。

現在、AFSでは、六十数カ国で高校生を交換しており、県内でも毎年何人か引き受けています。でも、まだまだ日本の場合は、日本から出ていく生徒に比べると、引き受ける生徒の数が少ないんです。今後はもっとたくさん日本でも、引き受けられるようにならなければいけないと思います。

外国人を特別視しないで、もっと気軽に友達として引き受けて頂きたいと思います。

市長　留学の期間はどれくらいなんですか。

小池　AFSでやっています高校生の留学は、一年間のプログラムと、三カ月くらいの短いプログラムの両方があります。

市長　そうですか。長い期間というのは、なかなか難しいかと思いますが、とりあえずは、短い期間を積み重ねて、そして長期へもっていくということがいいのではないかと思います。

小池　そうですね。

語学サービスの窓口が必要　長谷川さん
友好会館、国際室のご利用を　市長

救援募金に250万円が集まりました

司会　外国の方をお迎えする時、新潟市に必要なものは何でしょうか。

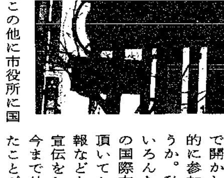
長谷川　せっかく新潟の方々が親切な気持ちをお持ちになっていても、町の中に英文の道路標識や案内板が少ないので、外国人にとって不親切なまちになっています。

外国人に限らず市民でも何か相談したいという時にですね、市役所でもどこでもよろしいんでしょうけれども、何かご相談相手になるような、窓口があるといいと思いますね。

それに何か言葉のボランティアというか、語学サービス機関といったようなものが、こういう窓口やサービス機関がありますよ、と案内してあげたらいかがでしょう。

市長　そうですね、英文の道路標識などは、必要な所に早く付けなければと思っております。言葉とか、いろいろな相談については、この座談会の会場である国際友好会館にも、英語の堪能な職員がおります。この他に市役所に国際室がございまして、姉妹・友好都市との交流に必要な英語、ロシア語、中国語の達者な職員がそろっております。

小池　せっかく国際友好会館があるわけですから、そこで開かれる催しに皆さん積極的に参加したらいかがでしょうか。私達も留学生を囲んでいろんな会合をする時に、この国際友好会館を利用させて頂いております。その時は市報などを通じて、いろいろの宣伝をして頂いてますので、今まで外国人とお付き合いしたことがないという方にも、気軽に参加して頂きたいと思ってます。



市民みんなが 国際人として

市長　国際交流というのは、やはり心のふれあいが大切なんでしょうね。

一昨年ガルベストン市がハリケーンに襲われて大きな被害が出た時、新潟・ガルベストン委員会が救援募金の中心的な役割をしましてね、心のこもった、血の通ったものだと、ガルベストン市民から感謝されました。

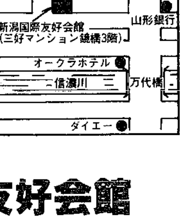
司会　本当に何か心暖まるものを感じますね。

市長　市民の皆さんには、これからも、外国の方とのふれあいの中で、外国の文化や生活を知って頂き、それを市民生活の中に生かしてもらえればと思っています。

こういった交流を進めていくためには、様々な条件、環境づくりが必要だと思いますが、市民の皆さんのご理解を仰ぎながら、できるものからやっていきたいと思います。

司会　今日は、国際交流についていろいろと貴重なご意見をいただきました。出会いを大切に、市民一人ひとりが国際人として、外国の方々との交流の輪を広げていきたいですね。

新潟国際友好会館
NIIGATA FRIENDSHIP CENTER
ДОМ ДРУЖБЫ НИИГАТА



新潟国際友好会館

(上大川前通６番町1211番地　☎25―2777)

開館時間　午前10時～午後6時

休館日　水曜日（その日が祝日の場合はその翌日)、祝日の翌日、12月29日～1月3日

利用方法　国際親善や国際交流に関する行事や集会に利用したい場合は、事前に会館事務室にお申し出下さい。